

東光高岳技報

第10号発刊にあたって ～東光高岳の目指すカーボン ニュートラルと技術戦略～

東光高岳技報編集委員会

昨年の東光高岳ホールディングス設立10周年に続き、東光高岳技報も10号の節目を迎えました。

この10号に至るまで、多くの方々のご協力、ご支援を賜りましたことを深く感謝申し上げます。

東光高岳技報は、電力ネットワークの安定品質を支える予測診断技術から、エポキシモールド樹脂のリサイクル技術、AIを用いた電力需要の予測技術、電力ネットワークの高度化に資する産学協働・実証試験などの先進的な取り組みまで、将来の顧客価値に繋げるためのさまざまな技術・製品・サービスを紹介してまいりました。

一方、この10年を振り返ると、電力システム改革、電力小売自由化、発送電分離、FITによる再生可能エネルギーの普及拡大、レジリエンス強化など東光高岳を取り巻く環境は大きく変化し、近年では2050年カーボンニュートラル（以下、CN）に向けて地球規模で大きく動き出しました。

そうしたなか、国内では近年の世界情勢を背景に、エネルギーの安定供給確保と産業競争力の強化・脱炭素の同時実現を目指したグリーントランスフォーメーション（以下、GX）によるクリーンエネルギー中心の産業構造・社会構造への転換が必要とされています。

東光高岳は、エネルギー供給の安定化と災害時のレジリエンスに資する次世代配電ネットワーク構築に向けて、デジタル技術を活用した既存技術とのハイブリッド、クリーンエネルギーの活用、IoTやAIを活用したスマート化による新たな製品・サービスの開発に挑戦します。

さらに、東光高岳の強みであるEV用充電器や計測技術を軸に、来たるべきモビリティ社会においてEVを単なる移動の手段と捉えるのではなく、エネルギー輸送媒体と考えた場合の活用方法など、新たな顧客価値を創造してまいります。

東光高岳は、2030ビジョンに掲げた「総合エネルギープロバイダー」実現に向けて、これまでの豊富な実績を通して培った幅広い技術をさらに深化・進化させることでCN・GX、BCP・レジリエンス強化、サーキュラーエコノミーなどの社会課題解決に貢献してまいります。今後も、東光高岳技報においてタイムリーに情報発信を行ってまいりますので、読者の皆様におかれましては、引き続きご愛読いただけますようお願い申し上げます。

